

・ 自己紹介

1948 旭川市鷹栖でアイヌとして生まれる。祖母・ヌイ、母・ナツヨ。
イシカラホントモ チュプカ クシペツ ペニウングル
タカスコタン コアパマカ クレコロカトゥ エネオカヒ
ハセガワオサム クネルウェネ

1967・東京へ、1972・鳥取へ、1983・現在の山梨へ以後首都圏で活動

・ アイヌ民族の歴史と日本の歴史

歴史認識の違いは単なる認識の違いだけではない。自己（人間）形成、日常の視座、思考、生きざま等を左右する。

例・北海道開拓、戸籍法、創氏改名、農地解放、保護法、大蔵喜八郎翁等々

・ 「開拓使仮学校附属北海道土人教育所」に関わる強制連行、就学について

1872、開拓使の黒田清隆は、「開拓使仮学校附属土人教育所」及び「第三官園」に北海道から強制連行、就学させられたアイヌ 38 人のうち 5 人が家族・故郷に想いを馳せて亡くなった。（開拓使仮学校は、後の札幌農学校、北海道大学である。）

（参考文献；「東京・イチャルパへの道」東京アイヌ史研究会 2007）

・ 1997 年、「北海道旧土人保護法」の撤廃、同年「アイヌ文化振興法」（略称）の成立

1984・「アイヌ民族に関する法律案」 「北海道旧保護法」は屈辱的な民族差別法である。アイヌ民族は日本の先住民族である。日本政府は政治的責任を明らかにすべきである。等の内容でアイヌ民族が独自に作成した、その内容を全く無視した法律が作られた。

・ 北海道外、とりわけ首都圏のアイヌ民族の課題

・ 国連に於いて 07・9・13、世界で 3 億 7 0 0 0 万人以上いるとされる先住民族の自決・自治権や固有の文化、資源、環境を保障する「先住民の権利に関する宣言」が採択される。

・ 日本政府は、有識者懇談会を内閣官房のもとに作り、6 月 29 日「報告書」素案が出された。

参考文献

- ・ 「東京・イチャルパ」への道 現代企画室 2007
- ・ 「アイヌ民族抵抗史」新谷行 三一新書 1977
- ・ 「チキサキの大地」 宮島利光 日本基督教団出版局 1994
- ・ 「アイヌ民族の歴史」榎森進 草風館 2007
- ・ 「先住民族の近代史」上村英明 平凡社 2001